

令和4年度「博物館等の国際交流の促進事業委託業務(実施事業)」

事業実施報告書

事業名	東西文化財を活用した博物館等の国際交流事業
受託者名	公益財団法人横山大観記念館

◆事業全体概要

事業名	東西文化財を活用した博物館等の国際交流事業
受託者名	公益財団法人横山大観記念館
事業内容	①画家の家をコンセプトとした国際交流（横山大観とクロード・モネ、横山大観とレオナルド・ダ・ヴィンチ）、②世界遺産クロ・リュセ城における大観作品とモネ作品レプリカ、大観手稿、ダ・ヴィンチ手稿等の展示）。国際交流の成果を発信するための「画家と建築家」「朦朧体と印象派」ビデオの作成③シンポジウムにおける活動成果等の報告
海外連携先	ジヴェルニー印象派美術館（フランス） モネの庭（フランス） クロ・リュセ城（フランス）
国内連携先	横山大観記念館 台東区教育委員会 東京都教育庁 東京藝術大学 名都美術館 川島織物文化館 隈研吾事務所
事業実施風景	

事業成果	<p>コンセプトを通じた国際交流という前例のない試みは、様々な分野の専門家が協働作業を行うことによって国内での交流が進み、さらに海外館との交流によって文化財の魅力が価値が高められました。また、同じ言語ではない者同士の交流において、会って会話したり、庭や作品など共に時間をかけて見ることで、微妙なニュアンスや感情を読み取ることができ、相互理解が進んだことは大変な成果でした。それらの成果は展示会、ワークショップ、ビデオなどの形にして国際発信しました。</p> <p>クロ・リュセ城で開催した展示会では、自分のスーツケースに掛軸やキャプションを入れ、レンタカーで自分自身で荷物を運びました。会場の設営も、自分たちと現地の学芸員や担当者の皆で協力して実施開催したことは、少ない予算でもレプリカの活用など工夫次第で日本文化の海外展示が可能であることを公に示せた事業となりました。クロ・リュセ城の展示見学者のほとんどは横山大観という画家を知らない状況でしたが、皆様見学後は実際に日本に行ってみたいという声が多く聞かれました。実際2月には、日本に行くなら横山大観に行きたいと展示を見た人から進められてきたという美術教師が来館するなどの成果もあげました。</p>
課題と改善策	<p>コンセプトによって国内外の美術館等とつながって国際交流を行うという企画はまだ始まったばかりです。現在は学芸員等の専門家による調査・研究によって実施されていますが、調査・研究は得意であってもその成果を発信するにはまだ力不足です。今後の日本文化のプレゼンス向上を図るには、地域の公共団体、学校、社会教育施設、観光施設、商業施設などへの連携を広げて、日本文化のプレゼンスを高める活動が必要になります。</p> <p>そこで、学芸員等の国際交流という概念に固執せず、コンセプトで全方位をつなげ、地域を巻き込んだ国際交流による日本文化の体験活動や国際発信等を実施します。</p>
国際交流モデルの提案	<p>本事業では、大観とモネという巨匠の邸宅と作品、大観とダ・ヴィンチという巨匠の手稿と作品をコンセプトとした調査・研究を行いました。このように、コンセプトを見つけて調査・研究を行うことは、単に一つの作品や題材をだけを扱うよりも広範囲なつながりを持つことが可能です。このように、共通のコンセプトを探して国際交流を実施すれば、作品所蔵館というつながりを無限大に探し出し、ワールドワイドな国際交流を行うことが可能となります。</p> <p>国際交流を行いたいと思う美術館・博物館等においては、まず、自分たちの所蔵品、所在地等の特徴や魅力、強味などを改めて見直して、ピックアップする必要があります。その作業を行うことで、館の使命、所蔵品の価値、地域の名産品、観光の魅力などを再確認、再発見、再構築できます。そして、その作業で見つけた価値や魅力を共有できる相手とつながり交流を実施します。</p>

【Ⅰ】 事業内容

【Ⅱ】 事業成果検証

【Ⅲ】 国際交流モデルの提案

【 I 】

事業内容

【 II 】

事業成果検証

【 III 】

国際交流モデルの提案

【 I 】 事業内容 > 1. 実施体制

☆「大観とモネ」の実施について

横山大観記念館、ジヴェルニー印象派美術館及びモネ財団によるモネ作品、大観作品を通じた国際交流を実施（フランスにて）
大観作品を通じてジヴェルニー印象派美術館と名都美術館・川島織物文化館との国際交流を実施（日本にて）

☆「大観とダヴィンチ」の実施について

横山大観記念館、クロリュセ城によるダヴィンチの手稿と大観の手稿を通じた国際交流を実施（フランスにて）



ジヴェルニー印象派美術館（フランス）



横山大観記念館（日本）



クロリュセ城（フランス）



モネ財団（フランス）



川島織物文化館(日本)



名都美術館（日本）

● 協力 台東区教育委員会 東京都教育庁 東京藝術大学大学院 三菱1号館美術館 隈研吾事務所 (株)AOSTA (株)共同印刷 他

【Ⅰ】 事業内容

【Ⅱ】 事業成果検証

【Ⅲ】 国際交流モデルの提案

【Ⅰ】 事業内容 > 2. 学芸員等の共同調査・研究等による文化財等の新たな価値の創出に係る取組一覧

取組名	取組の概要	連携先（海外・国内）	期間（実施日）	実施回数
画家デザインの邸宅（モネと大観）をコンセプトにした国際交流	横山大観とクロード・モネの植物画を通した、それぞれの邸宅兼アトリエと作品について、日本とフランスの学芸員の相互交流による調査・研究を実施	横山大観記念館 ジュエルニー印象派美術館 モネの家と庭 名都美術館 川島織物文化館 東京藝術大学 東京都教育庁 台東区教育委員会 三菱1号館美術館	・令和4年7月5日～ ・令和4年10月15日～16日、令和4年10月23日～29日	・メール等での交流 ・面接7日
画家の終の住処（ダ・ヴィンチと大観）をコンセプトにした国際交流	横山大観とレオナルド・ダ・ヴィンチの植物がや手稿等を通じた、それぞれの作品や邸宅にちて日本とフランスの学芸員等の相互交流による調査・研究を実施	横山大観記念館 クロ・リュセ城 三菱1号館美術館 限研吾事務所	・令和4年7月5日～ ・令和4年10月3日～4日、令和4年10月11日～14日	・メール等での交流 ・面接5日

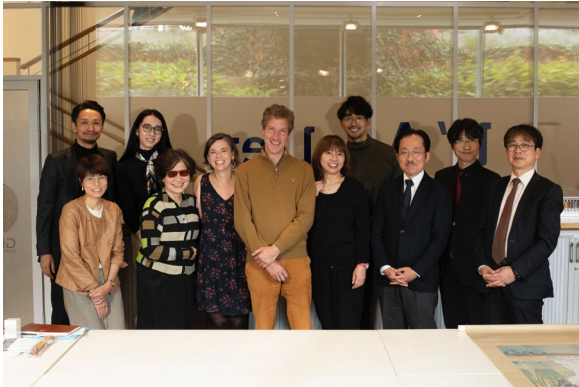
【Ⅰ】 事業内容

【Ⅱ】 事業成果検証

【Ⅲ】 国際交流モデルの提案

【Ⅰ】 事業内容 > 2. 学芸員等の共同調査・研究等による文化財等の新たな価値の創出に係る取組一覧

学芸員等の国際交流の様子



印象派美術館にて



クロリュセ城にて



モネの庭にて



川島織物文化館にて



名都美術館にて



横山大観記念館にて

【Ⅰ】 事業内容

【Ⅱ】 事業成果検証

【Ⅲ】 国際交流モデルの提案

【Ⅰ】 事業内容 > 3. デジタル技術やレプリカ等を活用した展示会等の開催に係る取組一覧

展示会等名	展示会等の概要	連携先（海外・国内）	期間（実施日）	実施回数
クロ・リュセ城での展示会	クロ・リュセ城の展示室において。モネと大観というフランスの巨匠と日本の巨匠の作品のレプリカの比較展示により、日本の文化の魅力を国際発信。さらにこの展示会では、レオナルド・ダ・ヴィンチと横山大観の共通のモチーフである手稿や邸宅等の調査・研究を活かした展示を実施した。	クロ・リュセ城 横山大観記念館 モネ財団 ジヴェルニー印象派美術館	令和4年10月12日、13日	2日間
大観の色・モネの色 ワークショップ開催	横山大観の朦朧体作品「阿やめ」レプリカ及びクロード・モネの印象派を代表する作品「睡蓮」レプリカを活用し、令和4年度の学芸員等の国際交流での成果を活かした「大観の色・モネの色」ワークショップを上野で開催。	ジヴェルニー印象派美術館 横山大観記念館 東京藝術大学 台東区教育委員会	令和4年11月18日	1回
教育ビデオ ①画家と建築家 ビデオ制作	大観とダ・ヴィンチの画家という共通項の他に、建築に関わっていたという共通項による国際交流の成果として、世界的建築家である隈研吾氏が、両者の比較、大観と邸宅の魅力、国際交流について語る。そしてもう一方、クロ・リュセ城の館長であるフランソワ・サンブリ氏が、時代も場所も離れたお二方の共通項を見出すことによってできる国際交流について語る番組を作成。	クロ・リュセ城 横山大観記念館 隈研吾事務所	令和4年10月12日、13日 (隈研吾氏出演部分上映) 令和5年2月24日YOUTUBE公開 https://youtu.be/dbZnLVJjCwk	2日間 令和5年 2月24日～
教育ビデオ ②朦朧体と印象派 ビデオ制作	横山大観記念館理事横山浩一氏とフランス ジヴェルニーにある印象派美術館館長シジル・シアマ氏によって、令和4年度国際交流によって明らかになった横山大観の描く手法「朦朧体」とフランス「印象派」についてや、朦朧体とモネの印象派を比較したときにどんなことが見えるのかなどを伝える番組。	ジヴェルニー印象派美術館 モネ財団 横山大観記念館 東京藝術大学 東京都教育庁	令和5年2月24日YOUTUBE公開 https://youtu.be/nRy4tlu-ws	令和5年 2月24日～

【Ⅰ】 事業内容

【Ⅱ】 事業成果検証

【Ⅲ】 国際交流モデルの提案

【Ⅰ】 事業内容 > 3. デジタル技術やレプリカ等を活用した展示会等の開催の詳細

クロ・リュセ城での展示会の様子

レンタカーによる荷物搬入と設営の様子



設営完了会場



展示風景



画家と建築家ビデオ上映



【Ⅰ】 事業内容

【Ⅱ】 事業成果検証

【Ⅲ】 国際交流モデルの提案

【Ⅰ】 事業内容 > 3. デジタル技術やレプリカ等を活用した展示会等の開催の詳細

「大観の色・モネの色ワークショップ」の様子



荒井教授の講義



共同印刷作成のワーク作業資料



講義動画の視聴

【Ⅰ】 事業内容

【Ⅱ】 事業成果検証

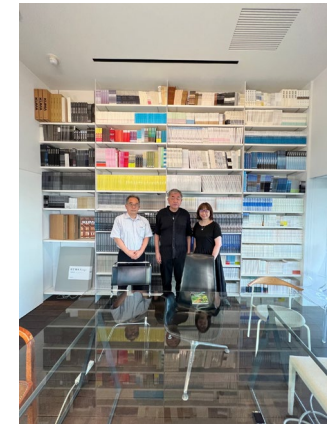
【Ⅲ】 国際交流モデルの提案

【Ⅰ】 事業内容 > 3. デジタル技術やレプリカ等を活用した展示会等の開催の詳細

ビデオ制作について

①「画家と建築家」ビデオ制作

令和5年2月24日YOUTUBE公開 <https://youtu.be/dbZnLVJjCwk>



②「朦朧体と印象派」ビデオ制作

令和5年2月24日YOUTUBE公開 https://youtu.be/nRy4tIu_ws



【Ⅰ】

事業内容

【Ⅱ】

事業成果検証

【Ⅲ】

国際交流モデルの提案

【Ⅰ】 事業内容 > 4. シンポジウムにおける活動成果等の報告

- 本事業において参加したシンポジウムにおける活動成果等の報告について、内容、実施風景を記載してください

シンポジウム名	令和4年度「博物館等の国際交流の促進事業委託業務(実施事業)」シンポジウム
開催日時	令和5年2月20日～28日
実施方法	Youtube配信(事前収録)
内容	<p>近代日本文化を代表する巨匠横山大観の作品と、国の史跡及び名勝指定されている大観旧宅及び庭園を管理公開している横山大観記念館が中心となり、海外の博物館等と連携し、作品、邸宅、生活等の共通点に着目したつながりを見つけ出し、学芸員等と共同で調査研究等を行う国際交流を実施しました。それにより創出された文化財等の新たな魅力や価値を、フランスでの展示会の開催や教育ビデオ、ワークショップの開催で発信し、日本文化のプレゼンスの向上に努めました。</p> <p>今まで誰も着目してこなかった意外な組み合わせで国内外の画家をつなげて調査・研究、発信することで、博物館等は同分野でしか繋がれないことはなく無限のつながりを広げて活動し、小さな博物館であっても、多方向の多様性のある国際交流と日本文化の魅力発信が可能になることを報告しました。</p>

実施風景



【Ⅰ】 事業内容

【Ⅱ】 事業成果検証

【Ⅲ】 国際交流モデルの提案

【Ⅰ】 事業内容

【Ⅱ】 事業成果検証

【Ⅲ】 国際交流モデルの提案

【Ⅱ】 事業成果検証 > 1. 設定したKPIと達成状況

KPI

- ・文化財等の新たな価値の創出は、人々の心に新たな発見による文化財の価値を伝えることを目的とし、ワークショップ参加者のアンケート結果を満足度80%以上に設定。
- ・先駆的な鑑賞モデルの構築はワークショップ応募数が会場定員の100%以上であるかに設定。
- ・収益力の確保は横山大観記念館への来訪者の対前年比120%以上であることに設定。
- ・日本文化のプレゼンスの向上については、海外での文化財の価値の認知度を上げる必要があることから、横山大観記念館のVR美術館への外国人のアクセス数の対前年比200%に設定。

達成状況

- ・ワークショップ参加者のアンケート結果を満足度96%
- ・ワークショップの参加応募数が会場定員の105%でした。
- ・収益力の確保は横山大観記念館への来訪者の対前年比200%でした。
- ・日本文化のプレゼンスの向上については、海外での文化財の価値の認知度を上げる必要があることから、横山大観記念館のVR美術館への外国人のアクセス数の対前年比220%でした。

今後の事業展開に向けて

- ・ワークショップ参加者の満足度は高く、参加希望者が定員よりは多かったものの、今後はさらに多くの応募者を集められるような取り組みを考える必要があります。脱コロナ禍で入館者は増加傾向にありますが、さらに海外からの集客を考えた施策を実施することが必要です。
- ・フランスでの展示会場で行った、QRコードでのVR美術館の宣伝は非常に効果がありましたので、今後もあらゆる機会を設けて実施するべきと考えます。

【Ⅰ】 事業内容

【Ⅱ】 事業成果検証

【Ⅲ】 国際交流モデルの提案

【Ⅱ】 事業成果検証 > 2. 事業成果の分析

【学芸員等の共同調査・研究等による文化財等の新たな価値の創出】

事業成果

画家同士の共通点からつながる美術館というコンセプトで開始された本事業ですが、当初の予想よりも大きなつながりと成果を上げました。

横山大観（1868年生まれ）の「阿やめ」、クロード・モネ（1840年生まれ）の「睡蓮」という植物画を通じて、横山大観とクロード・モネという日仏の巨匠と言われた画家の邸宅と作品について、ジヴェルニー印象派美術館と横山大観記念館、東京藝術大学、三菱一号館美術館、東京都教育庁等の日本画、洋画、文化財の専門家がつながり、レプリカを活用して、日本画と洋画の色の構成要素が大きく違う（日本画は色を混ぜることができない等）ことや、描き方の違いなどを発見、相互の文化の違いを理解することで、より文化財としての貴重性を確認、動画やワークショップで国際発信しました。

レオナルド・ダ・ヴィンチ（1452年生まれ）と大観は、ともに画家で、庭園の自然を描きました。でもそれ以外にも多くの共通点がありました。大観は朦朧体、ダ・ヴィンチは sfumato 技法で、それまでの線で輪郭を描いた手法ではなく、自然な光を意識した写実的な画法を確立しました。これを横山大観記念館、クロ・リュセ城などの美術界だけでなく隈研吾氏という建築の専門家にもつながりを広げた国際交流によって、その魅力や価値を確認することができました。さらに、それぞれの庭園や作品を相互に鑑賞することによって、専門家の理解がより進み、さらに相互の国のより多くの人々にそれを伝えたいという意識が強くなりました。

また、学芸の世界では敬遠されるレプリカですが、その活用は有益であり、今後も展示や研究に積極的に活用される価値があることを、本事業で示しました。

課題

- ①より多くの人々に文化財の魅力を発信していくには、共同調査・研究を美術館関係者だけでなく、学校現場や地域と連携することが必要です。
- ②様々な形でレプリカをさらに活用していくことで、より有効な方法等を検討することが課題です。
- ③本事業で繋がった国際交流の絆を絶やさずに継続させていく予算等の確保が課題です。

改善策

- ①本事業の成果をあらゆる機会に発信しつづけると同時に、博物館だけでなく、地域の教育現場や学校等とつながるために積極的な施策を行っていきます。
- ②レプリカは博物館だけでなく、どんな場所でも展示する機会の獲得に努めます。
- ③相互の美術館等の魅力の発信を継続し、相互の収益力強化に努めたり、新たな施策によって得られる予算の獲得を目指して活動します。

【Ⅰ】 事業内容

【Ⅱ】 事業成果検証

【Ⅲ】 国際交流モデルの提案

【Ⅱ】 事業成果検証 > 2. 事業成果の分析

【クロ・リュセ城での展示成果等の報告】

事業成果

- レオナルド・ダ・ヴィンチと横山大観の共通のモチーフである手稿や邸宅等の調査・研究を活かした展示、「画家と建築」ビデオの上映、掛軸等のレプリカの展示を実施することで、掛軸、日本画を見たことがない人々に、日本の文化の魅力、伝統建築の魅力等を発信することができました。レプリカ作品は日本の文化面での技術力の高さも発信できました。
- 来館者数 10月12日883名 13日727名



課題

- ①事業開始が8月と想定より遅れたため、ウクライナ戦争による物価上昇への対応、会場の確保や広報等に課題を残しました。
- ②予算面でコストカットするため、移送や準備をすべて自分達で行いましたが、予期せぬトラブル等に遭遇し、予定どおりに事業を進めるための出費が増加しました。
- ③フランス語通訳、英語翻訳パンフレット、キャプション以外の多言語での対応が必要でした。

改善策

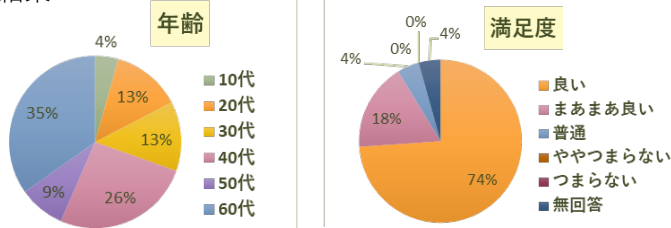
- ①事業開始時期を熟慮して、十分な準備期間や予算を確保するように計画します。
- ②移送や準備に関しては、予期せぬトラブル等を鑑みて余裕をもったスケジュールと人員配置を行うようにします。
- ③英語、フランス語だけでなく、その他言語でのパンフレットやキャプションの対応を検討していきます。

【 II 】 事業成果検証 > 2. 事業成果の分析

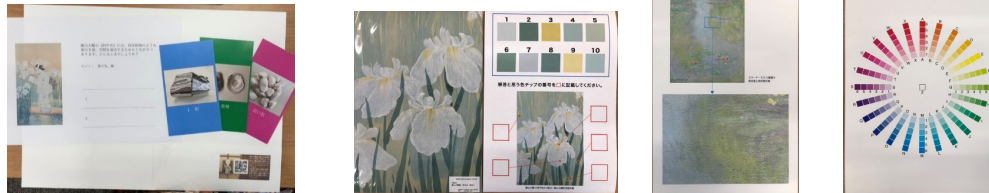
【モネの色大観の色ワークショップ成果等の報告】

事業成果

- 荒井経氏（東京藝術大学大学院教授）やSciama氏（フランス・ジヴェルニ印象派美術館館長）参加
- アンケート集計結果



- 参加者の満足度は96%。今後ワークショップがあればまた来たい、という声は100%（回答22名）となりました。
- 参加者の声「日本画か油絵のどちらを大学で選択するか迷っていたが、日本画にしたいと思った。」「新たな知識を得ることができ有意義な時間だった。」「高度な講義で難しかったが面白かった。」「色にフォーカスして絵を見たことがなく良い機会になった。」
- 本ワークショップを動画として横山大観記念館Youtubeに投稿することにより、国内外からの参加を可能にしました。また本事業協力会社の共同印刷よりニュースリリースを出し広く認知を図りました。



課題

- ① フランスでのワークショップに使用する動画の撮影を別途行う必要がありました。
- ② 広報活動が不足しました。（応募者27名 / 定員25名）
- ③ 教育要素の強い内容であるため、学校など教育機関でプログラムの開催ができませんでした。

改善策

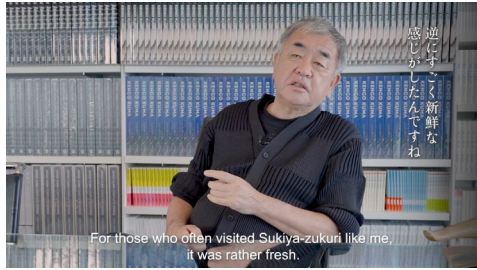
- ① 撮影前の準備段取りを徹底して行うようにします。
- ② 事前設計の段階で、広報活動についても様々な角度からの可能性を十分に検討します。
- ③ 参加可能性のある教育機関へのアプローチを検討していきます。

【Ⅱ】 事業成果検証 > 2. 事業成果の分析

【教育ビデオ制作の成果報告】

事業成果

- 「画家と建築家」ダ・ヴィンチと大観の調査・研究の成果を通じて横山大観の画家としてだけではない魅力を発信。世界的建築家隈研吾氏による発信は、美術界だけでなく、建築界等への日本文化の魅力発信につながりました。



※10月12日、13日 クロ・リュセ城で
 (来館者合計1,610名)
 ※2月24日～2月26日12時
 視聴174回

- 「朦朧体と印象派」大観の朦朧体とモネの印象派の比較調査・研究の成果を通じて日本画と油絵の違いや共通点、その成り立ちについてのビデオによって、近代日本画の魅力やその技法について発信しました。



※2月24日～2月26日12時
 視聴154回

課題

- ①専門的な調査・研究結果を教育的ビデオの制作で発信する場合、内容が専門的になりすぎて、一般に発信するには不向きな傾向作品となってしまっています。もう少し、軽い内容の検討が必要です。
- ②動画を作った発信先がSNS (YouTube) と展示会場なので、今後の展開利用が課題です。
- ③多言語翻訳のためチェック等で完成まで想定外の時間がかかってしまいました。

改善策

- ①より多くの方に観ていただけるよう、従来のビデオに加えて、子供向けや日本画をまったく知らない人でも観れるような番組制作を行います。
- ②学校や、教育機関へ出向き学芸員と共にビデオを活用したワークショップ等を開催します。
- ③海外撮影や翻訳等について、時間や予算をしっかりと確保して制作にあたります。

【 I 】 事業内容

【 II 】 事業成果検証

【 III 】 国際交流モデルの提案

【 II 】 事業成果検証 > 2. 事業成果の分析

【シンポジウムにおける活動成果等の報告】

事業成果

本事業では、近代日本文化を代表する巨匠横山大観の作品と、国の史跡及び名勝指定されている大観旧宅及び庭園を管理公開している横山大観記念館が中心となり、海外の博物館等と連携し、作品、邸宅、生活等の共通点に着目したつながりを見つけ出し、学芸員等と共同で調査研究等を行う国際交流を実施しました。それにより創出された文化財等の新たな魅力や価値を、フランスでの展示会の開催や教育ビデオ、ワークショップの開催で発信し、日本文化のプレゼンスの向上に努めました。

今まで誰も着目してこなかった意外な組み合わせで国内外の画家をつなげて調査・研究、発信することで、博物館等は同分野でしか繋がれないことはなく無限のつながりを広げて活動し、小さな博物館であっても、多方向の多様性のある国際交流と日本文化の魅力発信が可能になることを報告しました。

課題

今回はZOOMによる録画対応となりました。収録に際しての事前準備や収録、編集作業に大変な時間と労力を必要としました。

改善策

ZOOM録画の編集作業のできる人材を雇用することで改善できます。

【Ⅱ】 事業成果検証 > 2. 事業成果の分析

【その他の効果】

事業成果

クロ・リュセ城での展示会成果①

- 参加者の声・・・来館者からは大変満足のお声をいただきました。「大観という人は知らなかったけど、記念館に行ってみたくなった」「素晴らしい展示で大変満足でした。ビデオも面白かった」「アメリカから観光で来てたけど、次回は日本に行きます」



【Ⅰ】 事業内容

【Ⅱ】 事業成果検証

【Ⅲ】 国際交流モデルの提案

【Ⅱ】 事業成果検証 > 2. 事業成果の分析

【その他の効果】

事業成果

クロ・リュセ城関係者の自費での来館

- クロ・リュセ城のマネージャー達が横山大観記念館を見るために、本年度事業では予定していませんでしたが、自費で来日して、訪問してくださいました。



クロ・リュセ城での展示成果②

- クロ・リュセ城の展示を見たフランス人からのおすすめで、来日したスペイン人の美術教師が来館されました。

【Ⅰ】 事業内容

【Ⅱ】 **事業成果検証**

【Ⅲ】 国際交流モデルの提案

【Ⅱ】 事業成果検証 > 3. 継続事業・非継続事業の整理

次年度以降も継続する取組

取組名	今後の展開
コンセプトで繋がる国際交流	今後も国際交流は継続していく。さらにシームレスなコンセプトで繋がることができる美術館等を探し、同様の交流を国内外に広げて日本文化のプレゼンスを高める取り組みを継続します。
レプリカ等を使った展示会	あらゆる機会をとらえて日本文化を発信する展示会を開催します。
教育動画等の作成	地域の学校や教育機関等とも連携して、日本文化を発信できる動画やワークショップのプログラムを実践します。

次年度以降に継続しない取組

取組名	理由

【Ⅰ】 事業内容

【Ⅱ】 事業成果検証

【Ⅲ】 国際交流モデルの提案

【Ⅰ】

事業内容

【Ⅱ】

事業成果検証

【Ⅲ】

国際交流モデルの提案

【Ⅲ】 国際交流モデルの提案 > 1. 本事業を通じて構築した国際交流モデルの説明

「コンセプトで繋がる美術館」の構築

日本画の巨匠横山大観と印象派の巨匠クロード・モネ、横山大観とルネッサンスの巨匠レオナルド・ダ・ヴィンチとのコンセプトによる共通点を発見し、学芸員等の相互派遣や共同調査・研究を行うことで、博物館等の専門家同士の国際交流を通じた互いの文化の理解が進み、相手の文化に対する強い興味や関心を喚起することができました。その調査・研究には分野の違う専門家たちがシームレスにつながり協力しました。それだけでは、日本とフランスという全く違う文化や生活習慣を持つ一般市民の来日意識を喚起するのは大変に難しいため、展示会を実施しました。ダ・ヴィンチの終の住処であるクロ・リュセ城での展示会では、レプリカを活用して、掛軸という日本文化独特の作品に見て触れて感じていただき、そこから知的好奇心の刺激をおこないました。それにより、日本への来訪意欲の喚起を期待したのです。この横山大観とコンセプトでつながる巨匠たちとの国際交流はまさに、それを実現できる施策でした。さらにワークショップや教育ビデオを制作してyoutubeで発信しました。

前述したように、コンセプトでつながる博物館であれば、どんなに小さな事柄であっても世界中とつながることが可能になります。可能ではありませんが、実際に交流にまで結びつけるには、学芸員等の絶え間ない努力と根気強さが必要でした。しかしながら、それをクリアすれば、まず、メール等でつながり、交流を開始して、実際に会って交流ができました。そこから相互の文化財の理解や価値の再確認につながりました。

制作した教育ビデオは国内外の本事業に参加した美術館等によって継続的に活用発信されていきます。すでに、中学校の美術授業での利用希望があります。今後、学校でのアウトリーチ活動でも活用することが可能です。

横山大観記念館は日本の小さな博物館ですが、コンセプトによる広いネットワーク形成による日本文化の国際発信で、ウィズコロナ・ポストコロナの時代に、多くの外国の方に来訪していただける取り組みとして継続し、発展させていけるモデルと考えます。



【Ⅰ】 事業内容

【Ⅱ】 事業成果検証

【Ⅲ】 国際交流モデルの提案

【Ⅲ】 国際交流モデルの提案 > 2. 他博物館等への展開について

「コンセプトで繋がる美術館・博物館」の提案

・・・「何々の研究」にとどまらない、シームレスな全方位での交流

- 本事業では、大観とモネという巨匠の邸宅と作品、大観とダ・ヴィンチという巨匠の手稿と作品をコンセプトとした調査・研究を行いました。このように、コンセプトを見つけて調査・研究を行うことは、単に一つの作品や題材をだけを扱うよりも広範囲なつながりを持つことが可能です。大観とモネの作品を所蔵している館は日本やフランスのみならず世界中にあり、今回の国際交流を契機として今後さらなる国際交流の輪を広げることが期待できますし、ダ・ヴィンチも同様です。このように、共通のコンセプトを探して国際交流を実施すれば、作品所蔵館というつながりを無限大に探し出し、ワールドワイドな国際交流を行うことが可能となります。
- 国際交流を行いたいと思う美術館・博物館等においては、まず、自分たちの所蔵品、所在地等の特徴や魅力、強味などを改めて見直して、ピックアップすることが必要です。その作業を行うことで、館の使命、所蔵品の価値、地域の名産品、観光の魅力などを再確認、再発見、再構築できます。そして、次は国内外に目を向けて、その作業で見つけた価値や魅力を共有できる相手を探します。もしかしたら、先に国内外のターゲットをロックオンして、そこから共通点を探すということも可能かもしれません。
- これらの作業は決して簡単ではありません。人的作業の問題、海外との交流における予算の問題、いろいろな困難があると考えますが、知恵と工夫で乗り越える努力をすれば、必ず周囲の理解や協力を得られるようになります。私たちの実施したレプリカの展示はまさにそのいい例だったと思います。レプリカ、模型、はく製、そのほかいろいろな手段を活用して、館を出て国際交流やアウトリーチ活動につなげることなら小さな館でもできることです。加えて、小さな館同士が連携することで、それぞれの館の持つ魅力や価値を、国内外のより多くの人に伝え、その価値を高める活動がさらに容易になると考えます。

【Ⅰ】 事業内容

【Ⅱ】 事業成果検証

【Ⅲ】 国際交流モデルの提案

【Ⅲ】 国際交流モデルの提案 > 3. 持続的な国際交流モデルの提案

「コンセプトでつながる美術館・博物館」の持続モデル

- 前述したように、コンセプトを見つけて調査・研究を行うことは、単に一つの作品や題材をだけを扱うよりも広範囲なつながりを持つことが可能です。共通のコンセプトを探して国際交流を実施すれば、作品所蔵館というつながりを無限大に探し出し、ワールドワイドな国際交流を持つことができます。このつながりを持続させるには、単に作品だけでなく、愛飲のお酒や、旅行で好んで滞在した地域などの発展したつながりを探して調査・研究をつなげる必要があります。嗜好品や訪問地などは、美術館、博物館とは関係ないと思うかもしれませんが、より多くの人の関心を得ることができると考えます。学芸員、文化財というとても固い言葉で縛られた博物館から脱し、意外性や親しみをいかに見つけ発信するか、柔軟な学芸員、地域社会、公的機関、観光施設等、すべてが協力しあって広げることで、このコンセプトを通じた国際交流を持続、発展させらるると考えます。

